

向峠神楽の起源は、安政年間と伝えられている。天保の大飢饉を憂えていた庄屋・山田利右衛門が、十数年に亘る水路工事を完成させ、その記念に芸州に縁があり神楽を知っていた豊蔵林七なる者を支援し、山代神楽を習得、地域の若者に教え秋祭りに奉納したのが始まりとされている。

その後地区の若者に伝承されていたが、明治26年玖北神宮取締支所より神社付神楽の証を得、他地域の神社に奉納するようになった。

大正初期に至っては、石見神楽を採り入れ現在に及んでいるが、其の間、地区民挙げて協力し、衣装・面等の資金調達のため舞子母子講を作り、又後継者難の時には、地区内男子青年全部之を習得する等、紆余曲折はあったものの今日の向峠神楽保存会に継承されたものである。



向峠神楽保存会

